

令和2年度 第4回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和2年11月16日(水) 19:00~20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、堂面 政俊、
佐藤 貴、高橋 宏明、新甲さなえ、増田 裕久、香河 和義、長岡 義晴、
松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について (資料1 P1~32)

全国的に患者の増加がみられる中、令和2年10月23日、新型コロナウイルス感染症対策分科会が開催され、政府に対して年末年始に感染を拡大させないための提言を行った。この提言では、年末年始は飲酒や会食の機会が増えることから、「感染リスクが高まる5つの場面」と「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を国民・社会に広く発信すること等について述べている。

さらに、10月29日に開催された同会においては、感染症対策と社会経済活動の両立に向けた検査体制に対する考え・戦略が示された。これによると無症状者で検査前確立の低い者に対して一斉かつ頻回に検査を行う場合、膨大な検査を実施しても感染者を発見する可能性は極めて低く、また、一定数の偽陽性・偽陰性が存在すること、国際的にも広範な地域において無症状の人に対して広範な検査を行うことで感染制御に成功したエビデンスはないことから感染拡大防止に対する効果も低いとされている。

11月11日、広島県は、インフルエンザ流行期に備えた新たな相談・受診体制等を発表した。本市を含む県内全域において、今後は、発熱等の症状が出た場合、まずは、かかりつけ医など身近な医療機関に電話相談し、相談先の医療機関で対応できない場合は、当該医療機関が診療・検査ができる他院を紹介する。かかりつけ医などがなく、相談する医療機関に迷う場合は、コールセンターである「受診・相談センター」(積極ガードダイヤル)に相談し、「診療・検査医療機関」を紹介してもらう流れになる。

本市においては、引き続き、市民に対して新しい生活様式等の感染予防を行うよう啓発に努めるとともに、県や医師会と連携して年末年始の医療体制等について検討を進める。

(委員意見)

- ・ 引き続き、患者の発生動向に留意するとともに、市民等に対して感染予防の啓発に努めてほしい。
- ・ 新しい受診・相談体制について市民や医療機関に分かりやすく周知してほしい。

(2) 新型コロナウイルスワクチンについて (資料1 P33~56)

令和2年10月23日、国は、新型コロナウイルスワクチンの実施に関する通知を発出した。未だ具体的な接種開始時期は定まっていないが、実用化された際に早期に接種を開始できるよう接種のために必要な体制をあらかじめ整備することを目的として自治体の具体的な作業内容等が示された。

今後、広島県や医師会と連携して新型コロナウイルスワクチンの接種に必要な体制の整備を進めていく。

(委員意見)

- ・ 不確定な部分も多いが、少しずつ接種開始に向けて準備を進めてほしい。

(3) 令和元年 結核登録者情報調査年報集計結果について (資料1 P57~95)

厚生労働省は令和元年の結核登録者情報調査年報集計結果について公表した。

集計結果によると、令和元年の全国の結核新登録患者数は前年(平成30年)より1,130人(7.2%)減の14,460人となり、罹患率(人口10万人対)は、前年より0.8ポイント減少し、11.5となった。年齢階級別では、90歳以上のみ161人(8.9%)の増加で、それ以外の年齢階級では減少していた。全体に占める70歳以上の割合は約6割で、高齢者の結核患者の増加傾向は続いている。

(委員意見)

- ・ 増加傾向にある外国出生患者の対策に努めてほしい。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により管理検診の受診を控える者が散見されたため、受診の勧奨に努めてほしい。

2 10月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和2年10月分	令和2年11月分
		報告日 10/5～11/1 現在	報告日 11/2～11/12 現在
2類	結核	7人 (患者3人、潜在性結核4人)	
3類	腸管出血性大腸菌	3人 (10/8、10/10、10/11)	
4類	重症熱性血小板減少症候群	1人 (10/9)	
	日本紅斑熱	2人 (10/13、10/22)	
	つつが虫病		1人 (11/6)
	レジオネラ症		1人 (11/4)
5類	ウイルス性肝炎	1人 (10/9)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1人 (10/30)	1人 (11/4)
	急性脳炎	1人 (10/1)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人 (10/30)	
	後天性免疫不全症候群	1人 (10/12)	
	梅毒	2人 (10/13、10/21)	2人 (11/5、11/9)
	侵襲性肺炎球菌感染症		2人 (11/5、11/9)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人 (10/12)	
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	26人 (10/5(4人)、10/6、10/7(2人)、10/8(2人)、10/12、10/13、10/14(2人)、10/15、10/16、10/17(2人)、10/23、10/24、10/26、10/27、10/28、10/30(3人))	18人 (11/3(2人)、11/4(2人)、11/5(2人)、11/6、11/7(4人)、11/9(3人)、11/10、11/11、11/12(2人))

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和3年1月18日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：10月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は444人で、前月比1.24とやや増加した。
ヘルパンギーナは大きく増加、手足口病は増加、感染性胃腸炎はやや増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんはほぼ横ばいであった。

(2) 特記事項

- 広島市では新型コロナウイルス感染症の報告が続いており、累計報告数は377件(11月12日現在)となった。全国的に増加傾向で推移しており、今後の動向に注意が必要である。健康管理に注意し、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、「3密」を避ける、こまめに換気を行うなどの対策を徹底し、発熱や咳、倦怠感や味覚・嗅覚障害などの症状がある場合には、外出を控え、かかりつけ医等の医療機関やコールセンターへ連絡・相談することが重要である。
- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が1件、日本紅斑熱が2件報告されている。SFTSや日本紅斑熱は、マダニが媒介するSFTSウイルスや日本紅斑熱リケッチアによって起こる感染症である。山や草むらへ入るときは長袖・長ズボンを着用して肌の露出を避け、マダニの付着を防ぐ、屋外活動後は入浴してマダニが付着していないか確認するなどの対策をとることが重要である。
- 例年、11月頃からノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎が増加し、12月に流行のピークとなる傾向がある。集団感染が発生しやすい福祉施設、学校、保育園や幼稚園などの集団生活の場では、手洗いの励行、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムによる適切な消毒などの対策を徹底することが重要である。

(3) 10月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
 - 2類感染症：結核 7件（患者：3件、潜在性結核：4件）
 - 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件
 - 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 1件
日本紅斑熱 2件
 - 5類感染症：ウイルス性肝炎 1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件
急性脳炎 1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件
後天性免疫不全症候群 1件
梅毒 2件
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件
- 指定感染症：新型コロナウイルス感染症 26件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。それ以外は該当なし。

2 検査情報

10月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
感染性胃腸炎	アデノウイルス 31 型	8 月	1 人
手足口病	コクサッキーウイルス A16 型	9 月	2 人
その他の呼吸器疾患（咽頭炎）	ライノウイルス	9 月	1 人

4 人の患者から 3 種類のウイルス 4 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A16 型 2 株、アデノウイルス 31 型、ライノウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和2年10月解析分)

1. 週報対象(第41週～第44週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		-	-		10	流行性耳下腺炎		13	0.54	
2	咽頭結膜熱		19	0.81		11	RSウイルス感染症		1	0.04	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇨	51	2.13		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎	⇨	168	7.00		13	流行性角結膜炎		5	0.64	
5	水痘		17	0.71		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	⇨	67	2.80		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		3	0.12		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん	⇨	46	1.92		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ	↑	31	1.30		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(10月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	⇨	35	3.89
2	性器ヘルペスウイルス感染症		10	1.11
3	尖圭コンジローマ		9	1.00
4	淋菌感染症	⇨	29	3.22
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇨	23	3.29
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	⇨	⇨
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	⇨	⇨
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇨	

予測記号

流行始まり	① 流 ↗
流行中	① 流 →
流行終息傾向	① 流 ↘
終息	① 終

全数把握感染症報告数(令和2年10月分)

第41週～第44週(10月5日～11月1日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ベスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	7	110	1,406	14,382	
	10 シンテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	1	
	16 細菌性赤痢	-	-	1	60	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	3	21	400	2,707	
	18 腸チフス	-	-	-	21	
	19 パラチフス	-	1	-	7	
四類	20 E型肝炎	-	5	39	370	
	21 ウェストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	1	8	111	
	23 エキノコックス症	-	-	2	16	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	-	5	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	2	15	
	28 キャサスル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	1	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	4	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	1	
	34 重症熱性血小板減少症候群	1	3	13	72	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 チクングニア熱	-	-	-	3	
	40 つつが虫病	-	-	9	122	
	41 デング熱	-	1	-	42	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	2	4	114	400	
	46 日本脳炎	-	-	1	5	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	-	2	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	4	
	55 マラリア	-	-	1	20	
	56 野兔病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	1	25	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	-	14	241	1,782	
	62 レプトスピラ症	-	-	9	14	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	-	5	56	513
		65 ウイルス性肝炎	1	2	18	207
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	12	173	1,533
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	29
		68 急性脳炎	1	7	21	429
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	6
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	13	124
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	7	54	645
		72 後天性免疫不全症候群	1	9	107	895
		73 ジアルジア症	-	-	3	22
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	17	225
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	13
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	-	14	116	1,346
		77 水痘(入院例に限る。)	-	-	26	291
		78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
		79 梅毒	2	49	492	4,782
		80 播種性クリプトコックス症	-	-	16	124
		81 破傷風	-	1	7	92
		82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1	5	14	113	
84 百日咳	-	39	46	2,797		
85 風しん	-	-	3	93		
86 麻しん	-	-	-	13		
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	10		
指定	88 新型コロナウイルス感染症	26	357	※ 15,885	※ 100,618	

※新型コロナウイルス感染症の全国報告数は、厚生労働省ホームページから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)